[好事例]
　高速バス利用時に複数の方がサポートのバトンをつなげてくれた。

[当事者]
　視覚障がいのある M さん

[報告内容]
　M さんが初めて高速バスを利用した際、往路では偶然乗り合わせた知り合いの方にサービスエリア等の移動の支援をしていただけたが、復路では知り合いがおらず心配だったため、停留所までサポートしてくれた方がバスの男性運転手に「この女性は視覚障がいがあり、トイレの際には手助けしてほしい」と伝えてくれた。

［対応結果］
　トイレ休憩時には運転手がバスのドア付近で待機しており、運転手から「そちらの手は腕がいいですか？肩がいいですか？」と問いかけの上、トイレの前まで案内してくれ、戻ってくるまで待機してくれることになった。
　一人でトイレに入ると他の利用者がいたため「空いているトイレに案内をお願いできませんか？」と言うと、その方が快く個室に案内してくださり、トイレの設備についても教えてくれた。そのまま外で待機していると言われたため、 M さんが行ってもらってかまわないと伝えると、別の方から自分が引き継ぐとの申し出があった。個室から出ると申し出てくれた方が手洗い場まで誘導してくれ、 M さんが「みなさんにお手伝いしていただいてありがたいです」と言うと、一般の旅行者であったその方は「いいえ。当然のことですよ。」と返事があった。
　トイレから一緒に出るとバスの運転手が待機しており、運転手からその方に対して「ありがとうございました。お気をつけて。」と言われていた。
　バスに戻ると M さんは嬉しさで胸がいっぱいになり、4 人の方の厚意に涙が出そうになった。
　M さんの周りの方への声掛けもあって、4 人の方につながった心温まるバトンで楽しかった旅が締めくくられて、M さんにとって心に残るものとなった。